



手塩に掛けた花苗をプランターごと運び込む生徒たち

# ぽっぽガーデンに潤いを 生徒が丹精込めた花々託す

宇治支援学校&市福祉サービス公社

宇治市福祉サービス公社が管理する中宇治ぽっぽガーデンに宇治市宇治壱番に植え付けて1と7日、地域貢献を掲げる府立宇治支援学校(細矢義伸校長)の同市広野町丸山の高等部1年生16人が、色鮮やかな花苗を届けた。

その間も、生徒たちは校内で花苗の栽培に努め、ビデオレターを編集して様子を知らせるなど交流を続けた。宇治壱番の交差点にある約15平方メートルの花壇は、同公社の関係者らでつくるガーデニングクラブが日ごろ維持・管理している。

同校生徒は2014年11月、隣接する荒地約15平方メートルを掘り起こして整備を進め、毎年6・12月に花苗を植栽してきた。生活単元学習の一環として、取り組みを受け継ぐ生徒たちは、校内で栽培したパンジーとヴィオラ、2種類の合計30株を託した。

この日、イメージキャラクター「ぽっぽ」も同校を訪れ、「キレイなお花をありがとう」「会えてうれしー」などと生徒たちと交歓。プランターに3株ずつ分け、2、3人が1組になった生徒たちが車まで運び込んだ。生徒を代表して、くらし職業コース1年生の野口真央さんが「大切に育てました。これからよろしくお願いします」と挨拶し、同公社の田實敬幸事務局長が「大事にしたい」と誓った。

花苗は後日、ガーデニングクラブのメンバーらで植え付ける。